



『北の森の達人』

□■□読者の皆様へ□■□

北海道立林業試験場メールマガジン『北の森の達人』は、北海道の森林・林業・身近なみどりに関わる情報を皆様に直接お届けするメールマガジンです。

////////////////////////////////////

□■□目次□■□

- 刊行物ダイジェスト グリーンピックス No.31
平成15年度 北海道林業試験場年報
光珠内季報 No.135
グリーンメール No.11
- ホームページの紹介 緑化樹木使用実績と需要計画・H16年度版
- 森とみどりのQ&Aで解決! 針葉樹の球果特集
- 今日の達人のささやき 林業経営部主任研究員 黒丸 亮

////////////////////////////////////

■刊行物ダイジェスト1 ... グリーンピックス No.31(2004.8発行)

◇グイマツ雑種F1のブランド種子生産

品種「グリーン」なみのブランド品を効率的に生産するため、平成6、8年に新たな採種園を訓子府採種園団地内に造成しました。これは、既存のカラマツ採種園を帯状に間伐し、そこに特定の優良グイマツクローンを列状に植込んだものです。このクローンからできる雑種は、成長や幹の通直性が特に優れていますので、従来より優れた苗木が多く、しかも、周囲のカラマツが多い分、従来の採種園産種子より雑種率が高くなるはずで

◇ブナ苗木の生産に貢献する結実予測

ブナは黒松内低地帯を分布北限域とする、わが国を代表する落葉広葉樹ですが、まとまった面積のブナ林はもはや貴重なものとなりつつあり、ブナ林の保全・再生に対する関心は道南地方でも高まりを見せています。しかし、ブナは結実する種子の量が年によって大きく変動し、広い地域でほぼ一斉に豊凶が生じるため、播種、育苗、造林などを計画的に進める上で大きな障害となってきました。

こうした問題点を解決するために、道南支場では1990年からブナの豊凶調査を開始し、様々なケースに対応した結実予測技術の開発に成功してきました。現在では、毎年当場のホームページで豊凶予報を発表しており、これまでのところ86%の確率で豊凶を的中させています。

◇ブナ種子5年間の貯蔵に成功!

ブナは結実に豊凶があり、豊作年になるのは5~7年に1回程度と間隔が長いので、毎年、種子を一定量確保することが難しく、苗木を安定生産するうえでのネックとなっていました。

1997年から道南支場で開始した種子貯蔵試験の結果、乾燥・冷凍条件によって5年間貯蔵した種子でも高い発芽率(60%)を維持できることが明らかになりました。これは種子を採取した後、20℃の室温下で3日間自然乾燥させ、その後密封して-20℃の冷凍庫(家庭用冷蔵庫のフリーザーでよい)に保存するだけという、たいへん簡易なものです。

◇民有林の土壌情報データベースが完成!

-インターネットでのアクセスも可能-

道立林業試験場では、これまでに調査された民有林の土壌情報の保存、公開、利用促進を目的として、現存資料のすべてをデータベース化し、インターネットやGIS上で利用できるシステムを作成しましたので、ご紹介いたします。

<-刊行物詳細情報->

<http://www.fri.hro.or.jp/kanko/topics/topicsh16.htm>

■刊行物ダイジェスト2 ... 平成15年度 北海道林業試験場年報(2004.7発行)

◇平成15年度試験研究課題

◇平成15年度試験研究の概要

- ◆企画指導部(2課題) ◆林業経営部(17課題) ◆森林環境部(6課題)
- ◆森林保護部(5課題) ◆緑化樹センター(7課題) ◆道南支場(6課題)
- ◆道東支場(3課題) ◆道北支場(3課題)
- ◆外部との共同研究(11課題)

◇研究発表業績

- ◇技術指導並びに普及
- ◇物量の分析及び鑑定
- ◇林業専門技術員の活動実績
- ◇総務

<-刊行物詳細情報->

<http://www.fri.hro.or.jp/kanko/nempo.htm>

■刊行物ダイジェスト3 …… 光珠内季報 No.135(2004.6発行)

◇林業試験場が平成16年度に取り組む試験研究のあらまし

◇タネから育てる河畔林

— 郷土樹種育苗のための種子取り扱い(2)—

(森林環境部 長坂 有)

河畔に生育する様々な高木、低木について、種子の豊凶、採取適期、発芽特性、貯蔵方法、播種時の注意点等を紹介しました。樹種によっては数年に一度しか種子を確保できないものや、播種しても発芽に2～3年かかる樹種もあるため計画的に育苗することが重要です。

◇アロニア・メラノカルパを組織培養で増やす

— 千歳市森林組合との共同研究から—

(緑化樹センター 脇田陽一)

果実が健康食品として今話題であるアロニア・メラノカルパを効率的に増殖する方法として、組織培養による増殖技術を開発しました。これにより、共同研究先の千歳市森林組合では、組織培養により半年間で約2万本の苗木を生産・販売することができました。こうした組織培養による樹木の本格的な生産・販売体制は、全国でも初めてのことであります。

<-刊行物詳細情報->

<http://www.fri.hro.or.jp/kanko/kiho/kihoh16.htm>

■刊行物ダイジェスト4 …… グリーンメール No.11 (2004.6発行)

◇組織培養で増やす

◆組織培養による増殖方法

○組織培養の流れ ○枝の採取、殺菌 ○茎頂の摘出

○シュート形成 ○シュート増殖 ○発根 ○順化

◆アロニア・メラノカルパとは？

◆組織培養とは？

◆組織培養の利点

◆組織培養の欠点

<-刊行物詳細情報->

<http://www.fri.hro.or.jp/kanko/grmail/grmailindex.htm>

■ホームページの紹介 …… 緑化樹木使用実績と需要計画・H16年度版

「緑化樹木使用実績と需要計画・平成16年度版」は、優良な緑化樹の計画的生産の指標及び公共緑化事業の円滑な推進に資するため、国の関係機関、道の関係機関並びに市町村等の協力を得て、公共用緑化樹木の平成15年度の使用実績及び、平成16年度の使用計画を取りまとめたものです。

内容は、次のとおりです。

◇緑化樹木の使用状況と使用計画の概要

◇緑化樹木の使用状況と使用計画の図表

◇平成15年度緑化樹木使用状況の統計表

◇平成16年度緑化樹木使用計画の統計表

◇参考資料

<-緑化樹木使用実績と需要計画・H16年度版詳細情報->

http://www.fri.hro.or.jp/01ryokka/ryokkaju_h16.htm

■森とみどりのQ&Aで解決！ …… 針葉樹の球果特集

【Q1】松ぼっくり(針葉樹の球果)1個に何粒のタネが入っているのか？

【A1】針葉樹の球果1個に納められている種子粒数は松ぼっくりを形成する鱗状のもの(種鱗)の枚数の2倍になります。それは各種鱗の内側に左右それぞれ1粒ずつ収まっているからです。ただし、球果の先端部や基部では種鱗が小さすぎるために、種子が入っていないことがよくあります。

たとえば、カラマツ球果の種鱗数は40～50枚、同じカラマツの仲間のグイマツでは20～25枚ですので、単純計算ではそれぞれ80～100、40～50粒となりますが、実際は、それよりも少ない粒数となります。

トドマツでは球果の成熟に伴い、種鱗ごと脱落するため、直接種鱗数を調査した例は少ないのですが、千粒重や球果重量から計算すると150粒前後となります。ただし、母樹の産地によってもばらつきがあることが知られています。

【Q2】クラフト用にマツカサを拾ってきて水洗いしたら閉じてしまった。どうしたら開くか？

【A2】乾燥させると元どおりに開きます。

【Q3】カラマツの球果を加害する害虫の種類と、被害球果の見分け方を知りたい。

【A3】主な害虫はカラマツタネバエです。被害球果は変形しており、一部が褐色に変色し、正常なものに比べて小さいといった特徴があります。

【Q4】ヒバの結実促進方法は？

【A4】ジベレリン(果樹などで使われるGA3)を8月に数回150ppmの濃度で葉面散布します。種子の採取は

翌年の8月下旬から9月上旬に球果の色が緑褐色に変色したところに行います。

<-森とみどりのQ&A詳細情報->

<http://www.fri.hro.or.jp/q&a/search.asp>

■今日の達人のささやき

グイマツ雑種F1のブランド品を効率的に生産できる新たな採種園が働き始めました。この採種園は、既存のカラマツ採種園に特定の優良グイマツクローン母樹を列状に植込んでいます。この母樹からできる雑種は、現在普及している苗木よりも成長や幹の通直性が特に優れています。しかも、カラマツ花粉源が多い分、苗木の雑種率は従来の60%から90%へとアップします。道では、この貴重な種子をさし木増殖して供給する体制を検討中です。

////////////////////////////////////

■発行・編集

北海道立林業試験場

〒079-0198 北海道美唄市光珠内町東山

■問い合わせ担当

企画指導部森林情報室情報管理科

メールマガジン専用電子メール mmgadmin@hfri.pref.hokkaido.jp

■記事の取り扱い

北海道立林業試験場メールマガジンに掲載された記事を転載することはご遠慮ください。

////////////////////////////////////